

表 3520 2015年中の腹膜炎発症率(回/1患者・年) 治療方法(新分類)別(腹膜透析単独患者)

治療方法 (新分類)	0	1.0～	2.0～	3.0～	4.0～	5.0～	合計	不明 記載なし	総計	平均	標準偏差
腹膜透析 (CAPD)	2,098	270	70	23	8	14	2,483	1,595	4,078	0.25	0.79
(%)	(84.5)	(10.9)	(2.8)	(0.9)	(0.3)	(0.6)	(100.0)				
腹膜透析 (APD)	1,218	129	36	9	5	9	1,406	887	2,293	0.25	1.02
(%)	(86.6)	(9.2)	(2.6)	(0.6)	(0.4)	(0.6)	(100.0)				
腹膜透析 (CCPD)	430	44	14				488	245	733	0.15	0.44
(%)	(88.1)	(9.0)	(2.9)				(100.0)				
合計	3,746	443	120	32	13	23	4,377	2,727	7,104	0.24	0.84
(%)	(85.6)	(10.1)	(2.7)	(0.7)	(0.3)	(0.5)	(100.0)				
記載なし (%)											
総計	3,746	443	120	32	13	23	4,377	2,727	7,104	0.24	0.84
(%)	(85.6)	(10.1)	(2.7)	(0.7)	(0.3)	(0.5)	(100.0)				

数値下のかっこ内は行方向の合計に対する%です。

\*個々の患者の腹膜炎発症率(回/1患者・年)は、1.0未満の数値が0となるため、「0」と表示しています。

\*腹膜透析(CCPD)は、APDと手動のバック交換の両方を行うもの

(C)Japanese Society for Dialysis Therapy

2015年調査